

## 第2回 彦根市シティプロモーション戦略策定委員会 議事録

◆ 日時:2018年8月31日(金)10時00分～12時00分

◆ 場所:大学サテライト・プラザ彦根(C教室)

◆ 参加者:

<委員(リスト順・敬称略)>

出席:上田洋平／小椋昭代／柴田雅美／松居智和／宗田好史／橋本昌子／馬場完之／丸山武志

<事務局>

彦根市:シティプロモーション推進課 課長・疋田／同課長補佐・平尾／木田

株式会社いろあわせ:北川／関司

<彦根市関係課>

企画課:日根野／久保

<傍聴人>

3名(報道機関含む)

### 1. 開会

今回初参加の委員 自己紹介(宗田好史委員／丸山武志委員)

### 2. 各務ヶ原市視察報告

ー【事務局:彦根市】各務ヶ原市シティプロモーションのコンセプトや取組内容の説明。

市民を中心としていた音楽フェスやマルシェ、イベントを開催し、それらを取りまとめてうまく発信しているため、視察を依頼。フェスや各種イベントについては、市役所内に中心的な職員がいて、とりまとめて来たとのこと。彦根市と同じく、ワークショップを市民と開催していたが、形骸的になり、市民の声を最終的に落とし込むところが反省点という意見があったため、彦根市では市民の声をうまく取り込み反映させていくことを目標としたい。

●【宗田委員】大津市、京都市のまちづくりの例が参考になる。街をプロモーションする前に、市民をプロモーションすることが大切で、市民主役で進める形が理想。

●【上田委員長】市民を中心としたプロモーションをどのように進めて行くかは今後じっくりと議論して行く必要があり戦略の柱としていきたい。市役所の中で部局を超えたワーキングも必要。

「風格」についての話は、ぜひ別途宗田先生のお話もお伺いしたい。

- 【橋本委員】各務原市での取組みは、2年経って市民からの反響はあったか。
- 【事務局:いろあわせ】各務原市の場合は、具体的な施策を新たにゼロから立ち上げたこともあるが、既にあった事業をシティプロモーションの枠組みに上手く取り入れているということが大きい。  
今年度の彦根市としても、「魅力づくり／共感づくり」のようなキーワードや、具体的なプランの落としどころをイメージするのに、非常に参考になる視察となった。

### 3. 第一回市民ワーキング会議報告

#### ー 【事務局:いろあわせ】第一回市民ワーキング会議のご報告

8月22日(水)にビバシティホールで開催。市民の参加者は42名の参加予定でしたが台風も重なり33名が参加。アンケートでは満足度4.23点(5点満点)で参加者にとって満足度の高い会議となった。内容としてはシティプロモーション目的や方向性を説明し、参加者の自己紹介で4つのテーマでワーキンググループに分けてさらに2チームに分け7チームで彦根市の魅力について語り合った。最初は硬かったが、後半は盛り上がった。

今回は初回のため、場づくりに注力し、2回目以降は内容を深掘りし整理していく作業を進めていく予定。

補足:次回以降のワーキング会議の活かし方について説明。戦略策定委員会でのご要望を取り、双方連携取りながら進めていきたいと考えている。

- 【宗田委員】何を目的にワーキング会議を開いたのか？
- 【事務局:いろあわせ】「〇〇なまち彦根」という彦根市の魅力を探すため。彦根市まち・ひと・しごと創生総合戦略の4つの基本目標に即したテーマで進めていく予定。
- 【宗田委員】彦根市まち・ひと・しごと創生総合戦略の基本目標と、ワーキンググループのテーマ設定がマッチしていない。どうやってこのテーマを選んでいるのかが見えない。まち・ひと・しごと創生総合戦略は市民の信託をうけたものか？
- 【企画課:日根野】総合戦略策定には市民も参画いただいている。
- 【馬場委員】市議会はこの件を地方自治法第96条で議決案件とし、議決をいただいている。
- 【宗田委員】そもそもなぜテーマを運営側が選んだ？テーマは市民から選んでもらうべきだったのでは？
- 【事務局:いろあわせ】そこに関しては、今後アンケートの内容や市民の意見を含めて変わることを前提に、こちらから一案として出している状況。市民が市政にどう前向きに取り組んでいけるかが大切だと考えていた。市民の中にも熱量や考え方などそれぞれかと思うが、市民をどうやっ

て集めるのが良いと考えるか？

- 【宗田委員】NPO みたいなリーダーを置いておくことも一つ。市民のリーダーと追従する人とを作ることが大切。どうやって市民を集め、どういうプロセスで市民が中心となった戦略を考えたかは問われるところなので、市も受託企業もきちんとした認識を持っておく必要がある。
- 【柴田委員】いま出た意見は市民活動の面から考えるとその通りだと考えるが、一方で今回初の取り組みでワーキングの開催がまだ1回目ということもあるので、次からに期待したい。
- 【小椋副委員長】実際どういう方が集まったか。
- 【事務局:いろあわせ】創生総合戦略のターゲットでもある比較的若い方が多かった。1市民として、会社勤めの方々にも参加いただいており、年齢の平均は34歳だった。  
みなさんのご意見を聞き勉強しながらきちんと進めていきたいと考えている。個別のご相談もさせて頂くことはあるかもしれないが引き続きよろしくおねがいします。

#### 4. アンケート結果報告とまとめの検討

##### ー【事務局:いろあわせ】アンケート調査結果のご報告

今回2パターンのアンケートを作成している。彦根市民向けと、大都市圏(東京・大阪・名古屋)の方向けにアンケートを送付。年代別に送ってしまうと回答率にバラツキが出ることを考慮し、39歳以下と40歳以上に分けて送っている。評価の軸として「推奨意欲・参画意欲・感謝意欲」と定めた。評価軸を作成した理由として、定点観測として、成功をどう評価するかについて「推奨意欲・参画意欲・感謝意欲」の軸で次年度以降、どう変化しているかを観測するために設定。

今回の調査結果として、「推奨意欲」の点数が低く、今後シティプロモーションを行っていくに当たって、いかにこの点数を上げていくかが大切ではないかと考えている。彦根市の人の素直な気持ちが聞けてよかった。

- 【宗田委員】推奨意欲の高い人と低い人の違いは何か？
- 【事務局:いろあわせ】クロスをかけて属性データを分析し、資料にもあるように例えば推奨意欲の低い人は若い方が多いなどの結果が出て来ている。ただし、統計的に有意な差にまでは出ておらず、現状それ以上の調査は行えていない。
- 【馬場委員】「魅力を感じているが、奨めるほどではない」と感じている層は他県の方が少し多いと出ているがこれはどう考えたらいいか？
- 【事務局:いろあわせ】その通りで実際少し多いという結果は出ているが、有意とするほどの差は

ないと考えている。

- 【宗田委員】ここに年齢とのクロスはかけているか？
- 【事務局:いろあわせ】年齢とのクロスをかけたデータはあるが、それほど大きな差はない。そもそもこれらは単純集計を進めていく中で、導き出してきたというのが本当のところ。もし本当に必要な情報なのであればクロスで解析することを前提にデータ取りをする必要がある。
- 【丸山委員】アンケートの中で魅力を感じている 10 段階のうち 7 から下を低層とするのが良いのか。
- 【事務局:いろあわせ】同じ基準で比較しやすいため、あえてベンチマークしている那須塩原市の調査手法に合わせた。
- 【宗田委員】比較的 5 段階の方がまとめやすい。真ん中の 3 をつくることで、逆にもやもやした人の意見は出しやすいかもしれない。昔からいる彦根市民のニーズは吸い上げようとする意思是伝わるが、新しくきた市民のニーズを吸い上げられていないのでは？ここも属性をクロスしたデータが必要。
- 【事務局:いろあわせ】生まれ育った方と移り住んできた方のデモグラの違いや感謝推奨の違いは今後のコミュニケーションプランにも関わることなので再度確認しておく。
- 【小椋副委員長】思ったより返信率も高く、割と魅力を感じている方が多いと感じた。もっと悪い印象が広がっていると思ったので嬉しく思っている。コメントで書かれていることは、厳しい意見もあるがごもつともだと思った。
- 【馬場委員】アンケートの自由記入欄、とっても良い意見が出ているので、庁内の方にも広げてほしい。
- 【事務局:彦根市】良い意見をいただいているので、ぜひ庁内にも紹介したい。

<休憩:5分間>

## 5. 戦略の柱についての議論

### ー 【事務局:彦根市】戦略の柱についてのご説明と提案

アンケート調査を受け、「地域推奨量・地域参加量・地域感謝量」を重要な指標として進める。ア

ンケートで点数の低かった「推奨意欲」をいかに上げていくかを考えて、参加量・感謝量の側面からアプローチを行いたい。

そのために協働＋発散の場を設けるなど発信の機会を増やしていくことを戦略の柱として提案したい。「協働」というのは米原市でも丸山委員が主導で取り組まれていた協働事業提案制度があるのであつたものを彦根市でも行いたい。「発散の場」としては丹波で行われている「丹波みらいフェス」のような一般市民の人たちが市民間で魅力を語り合う場がありこちらも参考にしたい。

- 【宗田委員】地域の人がこの3つの柱を感じられているかが大切で、感じられていない人へどのように伝え、巻き込むかが重要。特にこれらを達成する上で、市役所がどう関われるのかが大切になってくる。
- 【馬場委員】「発散」という言葉や「感謝量」という言葉に違和感がある。行政の事業で感謝という言葉だと上から伝えているように受け取られる気もして言葉の使い方が難しい。
- 【柴田委員】市民活動をやっていると思うのは、助成が出来ても金額が少なかったり、参加者がいつも同じであつたり参加者が少なかったり、制度としてはあつてもあまり本当の意味で協働のイメージができないのは感じている。協働という言葉よりも共走の方がよいかもかもしれない。
- 【松居委員】協働という意味では、米原市の協働事業提案の結果なども知りたい。コミュニティは多様であつても良いと考えている。どういう風に今あるコミュニティに協働というかたちで関われるかが大切。
- 【丸山委員】米原では協働というより伴走というイメージで進めてきた。自らやりたいと思つて進めている市民の取り組みを否定しないこと、そして推奨する仕組みづくりが大切だと考える。そして市の補助金に依存せず、やりたい人が自らお金を集めて動けるよう、専門家を連れてきてクラウドファンディングで参加総量を上げる仕組みづくりをしている。市の関わり方として、仕組みづくりだけを行い、そつと少し離れて支援する距離感が良いと考えている。
- 【宗田委員】一般市民全員を対象にするのか、頑張っている若手を応援するのかは全然違うことを忘れてはならない。まずは一般市民全体を市役所が巻き込み仕組みづくりを行う。全体で設計図をつくるのは難しいが、商工会議所や地域の団体で細かくフォローするという体制づくりが必要。どこまでをシティプロモーションとして進めるのか。

- 【丸山委員】今日の議論をまとめると、シティプロモーションの戦略の目的・ゴールは推奨量のアップ、そのための手段が参加量のアップと感謝量のアップであって、そしてそれを進めるための戦略の柱が、協働の場と発散の場と情報発信という認識で良いか。
- 【事務局:いろあわせ】その認識でよい。今日の委員会ではその辺りの擦り合わせやご相談をした中でいろいろなご意見を頂き、議論が深くできたことがとっても良かった
- 【宗田委員】その上でどこを目指して進んでいくのかを記した地図が必要。もう少し方向性を整理した方が良い。
- 【事務局:いろあわせ】来年度以降、本当に何をしていくべきかを関係が想定される市民や関係部局のプレイヤーのことを踏まえて考えていく必要があると感じている。先を見越した戦略の柱(ロードマップ案)を準備していきたい。

## 6. 事務連絡等

### ー 次回日程の確認

第三回戦略策定委員会 9/28(金) 13:30-15:30

### ー市民ワーキング会議の予定連絡

- ・9月19日(水)19:00-
- ・10月17日(水)19:00-
- ・11月7日(水)19:00-
- ・12月5日(水)19:00-

## 7. 閉会

以上